

八水高が国際航海実習で漁獲

八戸市の八戸水産高校（藤澤重信校長）の生徒49人を乗せた海洋実習船「青森丸」（660ト）が18日、75日間のハワイ北方海域での国際航海実習を終えて八戸港に帰港し、マグロはえ縄操業実習で漁獲し船内凍結したメバチマグロ約31トのうち約300キを同港に水揚げした。このマグロは八戸学院大学が主催する「八戸水産高校マグロはえ縄漁業実習応援プロジェクト」で活用する。

（高松拓輝）

船凍マグロ 地元活用を

八戸港に300キ水揚げ

高校によると、実習で漁獲したマグロはこれまで、神奈川県三崎港でほぼ全量の水揚げしていた。今回は15日に三崎港に水揚げされたマグロのうち、大学が仲買業者を通じて一部を買い取り、実習船に乗せて八戸港まで運んだ。

プロジェクトは、マグロはえ縄実習を応援し八戸港の新たな水産資源活用につなげようと今年から開始。大学によると、12月8日に報告会とマグロを味わう会を開く。その後、有識者で研究会をつくり、八戸港での冷凍マグロの利活用について検討するという。

八学大の応援プロジェクト

大学の担当者は「八戸では鮮魚を扱う業者が多く冷凍マグロの活用は少ない。地域で冷凍マグロの知名度を上げてハマの活性化につなげたい」と話した。

高校によると、実習船のマグロは鮮度が良いことから、この時期の船凍マグロの中では最高値がつき、全体では約2500万円で販売した。

帰港式では藤澤校長らが生徒をねぎらった後、マグロ10本がクレーンで実習船からつり上げられ、陸揚げされた。水産工学科2年の荒道峻さんは「苦労して取ったマグロを地元の人にも食べてほしい」と話した。